



[平成22年度設置]

計画の区分：学部を設置

注1

関西学院大学 国際学部

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 関西学院
平成22年5月1日現在

作成担当者

企画室

次 長	オガワ シュウジ 小川 秀治
	エハラ ケイコ 江原 恵子
	クボ セイコ 久保 誠子

電話番号 0798-54-6026 (直 通)

(夜間) 0798-54-6026 (直 通)

F A X 0798-54-6030

e-mail kikaku@kwansei.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は届出時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

届出時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には届出時の旧名称を記載いただき、その下欄に()書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部
(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 〇〇学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科 (通信教育課程)」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

目 次

1	調査対象大学等の概要等	1
2	授業科目の概要	5
3	施設・設備の整備状況，経費	15
4	既設大学等の状況	17
5	教員組織の状況	19
6	留意事項に対する履行状況等	31
7	その他全般的事項	33

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 関西学院

(2) 大学名

関西学院大学

(3) 大学の位置

〒662-0891
兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(モリシタ ヨウイチ) 森下 洋一 (平成22年4月)		
学長	(スギハラ ソウイチ) 杉原 左右一 (平成22年4月)		
学部長	(イトウ ショウイチ) 伊藤 正一 (平成22年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成19年度に報告済の内容 → (19)

平成22年度に報告する内容 → (22)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて見え消し修正するとともに、上記と同様に「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は、平成19年度開設の4年制の学科の場合（平成22年度までの4年間）ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）

(5) -① 調査対象学部等の名称、定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
国際学部 国際学科 学士(国際学)	4年	300人	- 年次人	1,200人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度				平均入学定員超過率	備 考
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
A 入学定員	() 300人	()人	()人	()人	0.94倍	
志願者数	() 2,562	()	()	()		
受験者数	() 2,513	()	()	()		
合格者数	() 498	()	()	()		
B 入学者数	() 283	()	()	()		
入学定員超過率 B/A	() 0.94	()	()	()		

- (注) ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入し、平均入学定員超過率も同様の方法としてください。
 ・ 「平成22年度」には、平成22年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成19~21年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度				備 考
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
1年次	[30] 283	[]	[]	[]	
2年次	/	[]	[]	[]	
3年次	/	/	[]	[]	
4年次	/	/	/	[]	
計	[30] 283	[]	[]	[]	

- (注) ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 各年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成22年度	計 [0] 0	(累積)計 [30] 283	[0.0 %] 0.0 %
	うち平成22年度入学者 0人	うち平成22年度 283人	
	(主な退学理由)		
平成23年度	計 []	(累積)計 []	[%] %
	うち平成22年度入学者 人	うち平成22年度 人	
	うち平成23年度入学者 人	うち平成23年度 人	
	(主な退学理由)		
平成24年度	計 []	(累積)計 []	[%] %
	うち平成22年度入学者 人	うち平成22年度 人	
	うち平成23年度入学者 人	うち平成23年度 人	
	うち平成24年度入学者 人	うち平成24年度 人	
	(主な退学理由)		
平成25年度	計 []	(累積)計 []	[%] %
	うち平成22年度入学者 人	平成22年度 人	
	うち平成23年度入学者 人	平成23年度 人	
	うち平成24年度入学者 人	平成24年度 人	
	うち平成25年度入学者 人	平成25年度 人	
	(主な退学理由)		

(注)・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。

- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者（累積）で除した割合（%）を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他
- ・「平成22年度」については5月1日現在の状況を記入してください。
- ・「平成19～21年度」には、確定した数値を記入してください。

2 授業科目の概要

<国際学部 国際学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
キリスト教科目	キリスト教学A	1 春		2		1					
	キリスト教学B	1 秋		2		1					
	Christianity A	1 春		2			1				
	Christianity B	1 秋		2			1				
言語教育科目	第1 外国語初級 English I	1 春		4		1					兼7
	English II	1 秋		4		1					兼7
	English III	2 春		4							兼7
	English IV	2 秋		4							兼7
	Chinese I	1 春		4							兼2
	Chinese II	1 秋		4							兼2
	Chinese III	2 春		4							兼2
	Chinese IV	2 秋		4							兼2
	Korean I	1 春		4					1		兼2
	Korean II	1 秋		4					1		兼2
	Korean III	2 春		4							兼2
	Korean IV	2 秋		4							兼2
	Japanese I	1 春		4							兼4
	Japanese II	1 秋		4							兼4
	Japanese III	2 春		4							兼4
	Japanese IV	2 秋		4							兼4
第1 外国語中級	English V (L S)	3 春		2							兼4
	English VI (L S)	3 秋		2							兼4
	English V (RW)	3 春		2							兼3
	English VI (RW)	3 秋		2							兼3
	Chinese V (L S)	3 春		2							兼2
	Chinese VI (L S)	3 秋		2							兼2
	Chinese V (RW)	3 春		2							兼2
	Chinese VI (RW)	3 秋		2							兼2
	Korean V (L S)	3 春		2							兼1
	Korean VI (L S)	3 秋		2							兼1
	Korean V (RW)	3 春		2							兼1
	Korean VI (RW)	3 秋		2							兼1
	Japanese V (L S)	3 春		2							兼2
	Japanese VI (L S)	3 秋		2							兼2
Japanese V (RW)	3 春		2							兼2	
Japanese VI (RW)	3 秋		2							兼2	
第1 外国語上級	English VII (Presentation)	4 春		2							兼2
	English VIII (Presentation)	4 秋		2							兼2
	Chinese VII (Presentation)	4 春		2							兼1
	Chinese VIII (Presentation)	4 秋		2							兼1
	Korean VII (Presentation)	4 春		2					1		兼1
	Korean VIII (Presentation)	4 秋		2					1		兼1
	Japanese VII (Presentation)	4 春		2							兼1
	Japanese VIII (Presentation)	4 秋		2							兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
言語教育科目	第2外国語初級	英語Ⅰ	1春		2							兼1
		英語Ⅱ	1秋		2							兼1
		中国語Ⅰ	1春		2							兼5
		中国語Ⅱ	1秋		2							兼5
		朝鮮語Ⅰ	1春		2							兼2
		朝鮮語Ⅱ	1秋		2							兼2
		ドイツ語Ⅰ	1春		2		1					兼1
		ドイツ語Ⅱ	1秋		2		1					兼1
		フランス語Ⅰ	1春		2							兼2
		フランス語Ⅱ	1秋		2							兼2
	スペイン語Ⅰ	1春		2							兼2	
	スペイン語Ⅱ	1秋		2							兼2	
	第2外国語中級	英語Ⅲ	2春		2							兼1
		英語Ⅳ	2秋		2							兼1
		中国語Ⅲ	2春		2							兼4
		中国語Ⅳ	2秋		2							兼4
		朝鮮語Ⅲ	2春		2							兼2
		朝鮮語Ⅳ	2秋		2							兼2
		ドイツ語Ⅲ	2春		2			1				兼1
		ドイツ語Ⅳ	2秋		2			1				兼1
フランス語Ⅲ		2春		2							兼2	
フランス語Ⅳ		2秋		2							兼2	
スペイン語Ⅲ	2春		2							兼2		
スペイン語Ⅳ	2秋		2							兼2		
留学科目	英語短期留学TRT	2休		3		1						
	英語短期留学QUE	2休		3		1						
	英語短期留学OXF	2休		3		1						
	英語短期留学STL	2休		3				1				
	英語短期留学NSW	2休		4		1						
	英語中期留学MTA	2春・秋		13		1	1					
	英語中期留学TRT	2春・秋		12		1	1					
	英語中期留学QUE	2秋		12		1						
	英語中期留学STL	2春		12			1					
	中国語短期留学	2休		3			1					
	中国語中期留学	2春		16		1						
	朝鮮語短期留学	2休		3		1						
朝鮮語中期留学	2春		16				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手				
国際基礎科目	第1類 (入門的科目)	国際地域理解入門A	1 春		2			9	5					兼1	
	国際地域理解入門B	1 秋		2			7	4	3						
	国際学入門	1 春		2			11	1	2						
	ライフ・デザイン入門	1 秋		2											
	第2類 (基礎的科目)	比較文化論基礎	1 春		2			1			1			兼1	
		文化人類学基礎	1 秋		2							1			
		英米文学概論	1 春		2			1							
		社会言語学基礎	1 秋		2			1							
		言語構造と意味表現基礎	1 春		2			1							
		哲学・思想基礎	1 秋		2									兼1	
		Introduction to Applied Linguistics	1 春		2			1						兼1	
		Language and Culture in Japan A	1 秋		2									兼1	
		Language and Culture in Japan B	1 春		2									兼1	
		Japanese Linguistics	1 秋		2									兼1	
		国際関係論基礎	1 春		2					1					
		現代国際関係史基礎	1 春		2					1					
		政治学基礎	1 秋		2			1							
		社会システム論基礎	1 秋		2			1						兼1	
		法学基礎	1 春		2									兼1	
		国際法基礎	1 春		2			1							
		日本社会論基礎	1 秋		2					1					
		国際社会論基礎	1 秋		2			1							
		国際紛争論	1 秋		2									兼1	
		Japanese Politics and Diplomacy	1 春		2			1							
		Introduction to International Relations	1 秋		2									兼1	
		Introduction to Political Science	1 春		2									兼1	
		Prewar International History	1 春		2									兼1	
		International Conflicts	1 春		2									兼1	
		Introduction to International Law	1 秋		2									兼1	
		経済学基礎	1 春		2			1							
		経営学基礎	1 秋		2			1							
	簿記基礎	1 春		2					1						
	会計学基礎	1 秋		2			1								
日本経済基礎	1 春		2						1						
企業倫理	1 秋		2									兼2			
コンピュータ演習	1 春・秋		2									兼2			
Introductory Economics	1 秋		2			1									
Japanese Economy	1 秋		2						1						
Business Ethics	1 秋		2									兼2			
Introduction to Financial Accounting	1 秋		2					1							
第3類 (基礎演習科目)	基礎演習A	1 春		2			16	6	3				英語で行う基礎演習科目を充実するため教員を追加 (22) 担当 Tsu Timothy Yun Hui (教授)		
	基礎演習B	1 秋		2			16	6	3						
	Basic Seminar A	1 春		2			1	1							
	Basic Seminar B	1 秋		2			1	1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					備考	
			必修	選択自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際 専門 科目	共通科目										
	キリスト教と世界	2 春		2			1				
	グローバル化と文化	2 春		2		1					
	表象文化論	2 秋		2		1					
	文化越境論	2 春		2							兼1
	多文化共生論	2 秋		2							兼1
	グローバル化と言語	2 春		2		1					
	バイリンガリズム	2 秋		2		1					
	異文化間コミュニケーション論	2 春		2					1		
	Religions in Japan	2 春		2		1					
	Intercultural Understanding	2 春		2					1		
	Contemporary Multicultural Societies	2 秋		2							兼1
	Modern Japanese Novels in English Translation	1 春		2							兼1
	Japanese Poetry	1 春		2							兼1
	Japanese Art A	1 秋		2							兼1
	Japanese Art B	1 春		2							兼1
	Traditional Japanese Theatre	1 秋		2							兼1
	Japanese Cinema	1 春		2							兼1
	The Geography of Japan A	1 秋		2							兼1
	The Geography of Japan B	1 春		2							兼1
	Japanese Psychology	1 春		2							兼1
	Japanese History A	1 秋		2							兼1
	Japanese History B	1 春		2							兼1
	Religious and Traditional Rites	1 秋		2							兼1
	日本の政治と外交	2 春		2		1					
	日本国憲法	2 秋		2							兼1
	現代国際法	2 秋		2		1					
	国際政治経済論	2 春		2		2					
	国際制度論	2 秋		2		1					
	グローバル・ガバナンス論	2 秋		2		1					
	ヨーロッパ国際関係史	2 春		2							兼1
	国際ガバナンス事情	2 春		2							兼1
	国際ジャーナリズム論	2 秋		2							兼1
	北米とアジアの地理	2 春		2				1			
	比較対外関係論	2 春		2		1					
	Global Governance	2 春		2							兼1
	International Relations in Europe	2 春		2							兼1
	Japanese Society	秋 1 春		2							兼1
	Special Topics in Japanese Society	未開講 ↓秋		2				1			
	Government and Politics in Japan	1 秋		2							兼1
	Japanese Legal System	1 春		2							兼1
Japan's Foreign Relations	1 春		2							兼1	
Political Economy of Japan	1 秋		2							兼1	
国際企業経営論	2 春		2				1				
統計学	2 秋		2							兼1	
経済学 A	2 春		2		1						
経済学 B	2 秋		2		1						
経営学 A	2 春		2		1						
経営学 B	2 秋		2		1						
国際会計論	2 春		2		1						
財務報告および企業分析	2 秋		2		1						
国際マーケティング論	2 春		4							兼1	
国際移民論	2 春		2					1			
環境経済学	2 春		2							兼1	
経営人類学	2 春		2							兼1	

担当者変更に伴い開講学期を変更(22)

担当者の健康上の理由により担当時間数を減じざるを得なかったため未開講(22)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手		
国際専門科目	中国思想文化論	2・3 春		2								兼1	カリキュラム充実のため隔年開講から毎年開講に変更(22)
	アジアメディア文化論	2・3 秋		2								兼1	
	アジア言語文化論A	2・3 春		2		1							
	アジア言語文化論B	2・3 秋		2				1					
	日韓言語文化比較論	2・3 春		2				1					
	対人関係とアジア言語表現比較論	2・3 秋		2					1				
	アジアの女性とジェンダー	2・3 春		2								兼1	
	言語習得と日本語教育	2・3 秋		2								兼1	
	日本語学と日本語教育	2・3 春		2		1						兼1	
	東アジアの宗教と国家	2・3 秋		2		1							
	Religion and State in East Asia	2・3 春		2		1							
	Cultures in Australia	2・3 秋		2				1					
	Religions in China	2・3 秋		2		1							
	Traditional Japanese Arts	1・2 秋		2								兼1	
	Japanese Outlaws	1・2 秋		2								兼1	
	Introduction to Japanese Literature	1・2 秋		2								兼1	
	Introduction to Japanese Culture	1・2 春		2								兼1	
	Contemporary Korean Studies B	1・2 春		2				1					
	アジア社会論	2・3 春		2								兼1	
	韓国の政治と外交	2・3 秋		2		1							
	朝鮮半島論	2・3 春		2		1							
	中国の政治と外交	2・3 秋		2		1							
	アジアの国際関係	2・3 秋		2		1							
	アジアの法	2・3 秋		2								兼1	
	現代中国史	2・3 春		2		1							
	A S E A N 現代史	2・3 春		2								兼1	
	オセアニアの政治と外交	2・3 秋		2				1					
	International Relations in ASEAN	2・3 秋		2				1					
	Asia-Pacific Relations	2・3 休		2								兼1	
	Prewar US-Japan Relations	1・2 秋		2								兼1	
	Prewar Japanese Political History	1・2 秋		2								兼1	
	Postwar Japanese Political History	1・2 春		2								兼1	
	Postwar Japanese Diplomatic History	1・2 秋		2								兼1	
	Contemporary Korean Studies A	1・2 秋		2				1					
	アジア経済論A	2・3 春		2		1							
	アジア経済論B	2・3 秋		2		1							
	中国経済論	2・3 春		2		1							
	韓国経済論	2・3 春		2								兼1	
	中国企業経営	2・3 秋		2				1					
	アジア会計論	2・3 春		2				1					
East Asian Economies	2・3 春		2		1								
Chinese Economy	2・3 秋		2		1								
Management in Japan	2・3 春		2								兼1		
Japanese Financial Practices	2・3 秋		2								兼1		
Japanese Corporate Governance	2・3 春		2								兼1		
East Asian Finance	1・2 秋		2								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際専門科目	研究演習Ⅰ	3 通	4			17	5	3				
	研究演習Ⅱ	4 通	4			17	5	3				
	Research SeminarⅠ	3 通	4			1	1					
	Research SeminarⅡ	4 通	4			1	1					
	卒業論文	4 通	4			17	5	3				
	Graduation Thesis	4 通	4			1	1					
領域関連科目	英語学概論	1 秋		2								兼2
	英語音声学	秋 1 春		2								兼1
	統語論	2 春		2								兼1
	意味論・語用論	2 春		2								兼1
	英語史	2 春		2								兼1
	音韻論・形態論	2 秋		2								兼1
	英米文学研究法	2 秋		2								兼1
	イギリス文学史A	2 春		2								兼1
	イギリス文学史B	2 秋		2								兼1
	アメリカ文学史A	2 春		2								兼1
	アメリカ文学史B	2 秋		2								兼1
	実践英語学特殊講義	3 春・秋		2								兼2
	イギリス文学特殊講義	3 春・秋		2								兼2
	アメリカ文学特殊講義	3 春・秋		2								兼2

- (注) ・届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載いただき、届出時より変更されているものは赤字で見え消し修正いただき、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え消し修正してください。

(2) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 6	科目 279	科目 0	科目 285	科目 6 [0]	科目 279 [0]	科目 0 [0]	科目 285 [0]	

(注) ・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[] 内に、届出時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	Special Topics in Japanese Society	2	1秋	専門	選択	担当者の健康上の理由により担当時間数を減じざるを得なかったため。
2	Japanese Business B : Seminar	2	1春	専門	選択	担当者の副学長就任が決定し担当時間数を減じざるを得なかったため。

- (注) ・届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
—	該当なし。					

- (注) ・届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

番号1は、概説的内容である「Japanese Society」を開講しており、今年度はその授業を履修するよう履修指導した。次年度は担当者変更により対応する。学生に配布する「履修の手引き」にて学生へは周知している。
 番号2は、講義形式である「Japanese Business B : Lecture」を開講しており、今年度はその授業を履修するよう履修指導した。次年度は担当者変更により対応する。学生に配布する「履修の手引き」にて学生へは周知している。

- (注) ・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体					
	校舎敷地	246,230 m ² 239,785 m²	23,457 m ²	— m ²	269,687 m ² 263,242 m²	聖和短期大学と共用					
	運動場用地	285,086 m ² 291,531 m²	9,298 m ²	— m ²	294,384 m ² 300,829 m²	神戸三田キャンパス第3カウント の用途変更に伴う校舎敷地 と運動場用地の面積変更 (22)					
	小 計	531,316 m ²	32,755 m ²	0 m ²	564,071 m ²	その他の面積計上対象に国際 交流レジデンスと張記念 館を追加したことに伴う面 積変更(22)					
	そ の 他	39,896 m ² 37,948 m²	4,600 m ²	— m ²	44,496 m ² 42,548 m²						
	合 計	571,212 m ² 569,264 m²	37,355 m ²	0 m ²	608,567 m ² 606,619 m²						
(2) 校 舎	専 用	218,068 m ² 251,489 m² (218,068 m ²) (-251,489 m²)	21,257 m ² 24,565 m² (21,257 m ²) (-24,565 m²)	889 m ² (889 m ²)	240,214 m ² 276,943 m² (240,214 m ²) (-276,943 m²)	大学全体 聖和短期大学と共用 西宮上ヶ原キャンパスG号館増 築、神戸三田キャンパス第3厚生 棟建設、第一教授研究館建 替、建物用途変更に伴う面 積変更(22) スポーツ施設、課外活動施 設、厚生補導施設、講堂に 該当する建物の面積を減算 したことによる変更(22)					
	共 用										
	共用する他の 学校等の専用										
(3) 教 室 等	講 義 室	228 室 217 室	演 習 室	157 室 146 室	実験実習室	250 室	情報処理学習施設	46 室 50 室	語学学習施設	12 室 15 室	大学全体
								35 (補助職員42人)	9 (補助職員 8人)		西宮上ヶ原キャンパスG号館増築 に伴う増加(22) 神戸三田キャンパスⅢ号館改修 に伴う用途変更(22) 情報処理学習施設補助職員 退職のため(22) 語学学習施設補助職員新規 採用のため(22)
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数							
	国際学部国際学科			29 室							
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点				
	国際学部国際学科	222,835 [87,344] (202,707 [80,600])	13,340 [6,378] (12,036 [5,781])	79,142 [72,358] 32,893 [30,634] (76,241 [69,706]) (28,893 [26,634])	26,925 (22,330)	40 (13) (10)	0 (0)	平成22年4月 電子ジャーナルタイトル数 の算出方法を見直したため (22) 機 械 ・ 器 具 : 教育研究充実 のため増加(22)			
	計	222,835 [87,344] (202,707 [80,600])	13,340 [6,378] (12,036 [5,781])	79,142 [72,358] 32,893 [30,634] (76,241 [69,706]) (28,893 [26,634])	26,925 (22,330)	40 (13) (10)	0 (0)				

(6) 図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数				
	22,953 m ²		2,236 席		1,900,000 冊				
(7) 体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	16,310 m ²		-						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
	教員1人当り研究費等		1,399 千円	1,385 千円	1,372 千円	1,356 千円			
	共同研究費等		243,044 千円	243,878 千円	243,878 千円	244,102 千円			
	図書購入費	671,748 千円	715,672 千円	704,912 千円	693,512 千円	674,195 千円			
	設備購入費	1,153,162 千円	312,644 千円	309,246 千円	309,339 千円	309,381 千円			
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,365 千円	1,217 千円	1,217 千円	1,217 千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、寄付金収入、補助金収入、資産運用収入、資産売却収入を充当する。						

- (注) ・届出時の計画を設置届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
- ・「(3)教室等」「(5)図書・設備」等について、届出時に数値を記載する必要がなかった学部等(平成20年度届出以前)については、届出時の数値の記載は不要ですが、平成22年5月1日現在の数値を赤字で記入してください。届出時に数値を記載した学部等(平成21年度届出以降)については、届出時の数値を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え消し修正してください。
 - ・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定の数値を、下段には平成22年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(22)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	関西学院大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍		兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号	
関西学院大学 神学部	4	30	—	120	学 士 (神 学)	1.04	昭和27年	同上	
文学部						1.06		同上	H15年度より学生募集停止 (文学部哲学科、 美学科、心理学 科、教育学科、史 学科、日本文学 科、英文学科、フ ランス文学科、ド イツ文学科)
哲学科	4	—	—	—	学 士 (文 学)	—	昭和23年		
美学科	4	—	—	—	学 士 (文 学)	—	昭和27年		
心理学科	4	—	—	—	学 士 (文 学)	—	昭和23年		
教育学科	4	—	—	—	学 士 (文 学)	—	昭和23年		
史学科	4	—	—	—	学 士 (文 学)	—	昭和26年		
日本文学科	4	—	—	—	学 士 (文 学)	—	昭和23年		
英文学科	4	—	—	—	学 士 (文 学)	—	昭和23年		
フランス文学科	4	—	—	—	学 士 (文 学)	—	昭和38年		
ドイツ文学科	4	—	—	—	学 士 (文 学)	—	昭和34年		
文化歴史学科	4	275	—	1,100	学 士 (文 学)	1.05	平成15年		
総合心理科学科	4	175	—	700	学 士 (文 学)	1.03	平成15年		
文学言語学科	4	320	—	1,280	学 士 (文 学)	1.08	平成15年		
社会学部						1.15		同上	H20.4収容定員減 H20年度より学生募集停止(社会学部 社会福祉学科) H21.4収容定員増
社会学科	4	650	—	2,250	学 士 (社 会 学)	1.15	昭和35年		
社会福祉学科	4	—	—	—	学 士 (社 会 福 祉 学)	—	平成11年		
法学部						1.01		同上	H20.4収容定員増 H20.4収容定員増
法律学科	4	520	—	2,070	学 士 (法 学)	0.97	昭和23年		
政治学科	4	160	—	620	学 士 (法 学)	1.12	昭和23年		
経済学部	4	680	—	2,690	学 士 (経 済 学)	1.01	昭和23年	同上	H20.4収容定員増
商学部	4	650	—	2,600	学 士 (商 学)	1.02	昭和26年	同上	
理工学部						1.12			H21.4学科設置 H21.4収容定員減、 専攻廃止 H21年度より学生募集停止(物理学科 物理学専攻、数学 専攻) H21.4収容定員増、 専攻設置
数理科学科	4	75	—	150	学 士 (理 学)	1.16	平成21年	兵庫県三田市 学園2丁目1番地	
物理学科	4	75	—	370	学 士 (理 学)	1.19	昭和36年		
物理学専攻	4	—	—	—	学 士 (理 学)	—			
数学専攻	4	—	—	—	学 士 (理 学)	—			
化学科	4	75	—	300	学 士 (理 学)	1.09	昭和36年		
生命科学科	4			100	学 士 (生 命 科 学)	1.06	平成14年		
生命科学専攻	4	40	—	80	学 士 (生 命 科 学)				
生命医化学専攻	4	40	—	80	学 士 (生 命 科 学)				
情報科学科	4	75	—	400	学 士 (情 報 科 学)	1.04	平成14年		
人間システム工学科	4	80	—	160	学 士 (工 学)	1.19	平成21年		
総合政策学部			3年次			1.02		同上	H21年度より学部 一括募集を開始
総合政策学科	4	240	35	1,300	学 士 (総 合 政 策)	1.03	平成7年		H21.4収容定員減
メディア情報学科	4	120	—	480	学 士 (総 合 政 策)	0.99	平成14年		
都市政策学科	4	100	—	200	学 士 (総 合 政 策)	—	平成21年		H21.4学科設置
国際政策学科	4	120	15	240	学 士 (総 合 政 策)	—	平成21年		H21.4学科設置

大学の名称	関西学院大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
人間福祉学部	年	人	年次	人		倍			
社会福祉学科	4	130	—	390	学士（社会福祉学）	1.03	平成20年	兵庫県西宮市	H20.4学部設置
社会起業学科	4	70	—	210	学士（社会起業）	1.12	平成20年	上ヶ原一番町	
人間科学科	4	100	—	300	学士（人間科学）	1.12	平成20年	1番155号	
教育学部			3年次			1.00			
幼児・初等教育学科	4	280	5	560	学士（教育学）	0.96	平成21年	兵庫県西宮市	H21.4学部設置
臨床教育学科	4	70	—	140	学士（教育学）	1.15	平成21年	岡田山7番54号	
国際学部									
国際学科	4	300	—	300	学士（国際学）	0.94	平成22年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号	H22.4学部設置
大学の名称	聖和大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
聖和大学	年	人	年次	人		倍			
教育学部			3年次						
幼児教育学科	4	—	5	10	学士（教育学）	—	昭和39年	兵庫県西宮市 岡田山7番54号	H21.4設置者変更 H21年度より第1年次 の学生募集停止 （教育学部幼児教育 学科）
人文学部									
キリスト教学科	4	—	—	—	学士（人文学）	—	平成7年	同上	H21年度より学生募集 停止（人文学部 キリスト教学科、 グローバル・コミュニ ケーション学科）
グローバル・コミュニケーション学科	4	—	—	—	学士（人文学）	—	平成7年		
大学の名称	聖和短期大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
聖和短期大学	年	人	年次	人		倍			
保育科	2	150	—	300	短期大学士（保育学）	1.05	昭和25年	兵庫県西宮市 岡田山7番54号	H21.4設置者変更、 名称変更

(注)・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成22年5月1日現在の状況を記入してください。

（専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）

- ・設置届出書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。
- ・「定員超過率」には、過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を、学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）の記載は不要です。
- ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<国際学部 国際学科>

(1) 担当教員表

届出時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授(学部長)	伊藤 正一	平成22年4月	国際地域理解入門B 国際学入門 経済学基礎 Introductory Economics 中国経済論 Chinese Economy 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文						
専	教授	于 康	平成22年4月	国際地域理解入門B 言語構造と意味表現基礎 基礎演習A 基礎演習B アジア言語文化論A 日本語学と日本語教育 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文 中国語中期留学						
専	教授	榎本 悟	平成22年4月	国際地域理解入門A 国際学入門 経営学基礎 基礎演習A 基礎演習B 経営学A 経営学B 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文						
専	教授	木本 圭一	平成22年4月	国際地域理解入門B 国際学入門 会計学基礎 基礎演習A 基礎演習B 国際会計論 財務報告および企業分析 経済・経営特別演習 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文 英語中期留学Q U E						
専	教授	高阪 章	平成23年4月	国際地域理解入門B 基礎演習A 基礎演習B 経済学B アジア経済論A アジア経済論B East Asian Economies 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文						
専	教授	櫻田 大造	平成22年4月	国際地域理解入門A 国際学入門 基礎演習A 基礎演習B 比較対外関係論 カナダの政治と外交 カナダ現代史 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文 英語中期留学T R T						
専	教授	杉山 直人	平成22年4月	国際地域理解入門A 国際学入門 英米文学概論 基礎演習A 基礎演習B 北米文化論 日米比較文化論 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文 英語短期留学O X F						

専任・兼任・兼任の別	届出時の計画				変更状況					備考
	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	田村 和彦	平成22年4月	ドイツ語 I ドイツ語 II 国際学入門 比較文化論基礎 基礎演習 A 基礎演習 B グローバル化と文化 表象文化論 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文 英語短期留学 Q U E						
専	教授	Tsu Timothy Yun Hui	平成22年4月	国際地域理解入門B 基礎演習 A 基礎演習 B Religions in Japan 東アジアの宗教と国家 Religion and State in East Asia Religions in China Research Seminar I Research Seminar II Graduation Thesis 英語短期留学 N S W					国際地域理解入門B 基礎演習 A 基礎演習 B Basic Seminar A Basic Seminar B Religions in Japan 東アジアの宗教と国家 Religion and State in East Asia Religions in China Research Seminar I Research Seminar II Graduation Thesis 英語短期留学 N S W	英語で行う基礎演習科目を充実するため担当科目を追加(22)
専	教授	長谷 尚弥	平成22年4月	English I English II 国際地域理解入門A Introduction to Applied Linguistics 基礎演習 A 基礎演習 B 北米言語文化論 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文						
専	教授	平岩 俊司	平成22年4月	国際地域理解入門B 政治学基礎 基礎演習 A 基礎演習 B 韓国の政治と外交 朝鮮半島論 アジアの国際関係 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文 朝鮮語短期留学						
専	教授	平林 孝裕	平成22年4月	キリスト教A キリスト教B 国際学入門 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文						
専	教授	丸桶 恭一	平成22年4月	国際地域理解入門A 国際学入門 国際社会論基礎 Japanese Politics and Diplomacy 基礎演習 A 基礎演習 B 日本の政治と外交 グローバル・ガバナンス論 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文					国際地域理解入門A 国際学入門 国際社会論基礎 社会システム論基礎 Japanese Politics and Diplomacy 基礎演習 A 基礎演習 B 日本の政治と外交 グローバル・ガバナンス論 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文	柏岡富英兼任講師が平成22年度より本務校学部長に就任することに伴い、柏岡富英兼任講師担当科目を追加して担当(22)
専	教授	三宅 康之	平成23年4月	国際地域理解入門B 国際学入門 基礎演習 A 基礎演習 B 中国の政治と外交 現代中国史 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文 英語中期留学 M T A						
専	教授	宮田 由紀夫	平成22年4月	国際地域理解入門A 基礎演習 A 基礎演習 B 経済学 A 北米経済論 アメリカ産業技術論 US Economy 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文						

専任・兼任・兼任の別	届出時の計画				変更状況					備考
	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	山本 雅代	平成22年4月	国際地域理解入門A 国際学入門 社会言語学基礎 基礎演習A 基礎演習B グローバル化と言語 バイリンガリズム 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文 英語短期留学 T R T						
専	教授	吉村 祥子	平成22年4月	国際地域理解入門A 国際学入門 国際法基礎 基礎演習A 基礎演習B 現代国際法 国際制度論 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文						
専	教授	鷲尾 友春	平成22年4月	国際地域理解入門A 基礎演習A 基礎演習B 国際政治経済論 アメリカ社会論 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文						
専	准教授	Eun Ja Lee	平成22年4月	Chrstianity A Chrstianity B 国際地域理解入門A 国際地域理解入門B Basic Seminar A Basic Seminar B キリスト教と世界 Special Topics in Japanese Society Contemporary Korean Studies B Contemporary Korean Studies A						
専	准教授	王 昱	平成22年4月	国際地域理解入門B 国際学入門 簿記基礎 基礎演習A 基礎演習B 中国企業経営 アジア会計論 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文 中国語短期留学						
専	准教授	大石 太郎	平成22年4月	国際地域理解入門A 国際地域理解入門B 日本社会論基礎 基礎演習A 基礎演習B 北米とアジアの地理 カナダ社会論 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文						
専	准教授	楠 綾子	平成22年4月	国際地域理解入門A 現代国際関係史基礎 基礎演習A 基礎演習B アメリカの外交 現代日米関係論 研究演習 I 研究演習 II 卒業論文						
専	准教授	児島 幸治	平成22年4月	国際地域理解入門A Introduction to Financial Accounting 基礎演習A 基礎演習B International Accounting Financial Reporting and Analysis 北米企業分析 Research Seminar I Research Seminar II Graduation Thesis 英語中期留学 M T A						

専任・兼任・兼任の別	届出時の計画				変更状況					備考
	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	重政 公一	平成22年4月	国際地域理解入門B 国際関係論基礎 基礎演習A 基礎演習B オセアニアの政治と外交 International Relations in ASEAN 研究演習I 研究演習II 卒業論文 英語中期留学TRT						
専	准教授	Holger Robert Bungsche	平成22年4月	ドイツ語III ドイツ語IV 国際地域理解入門A 基礎演習A 基礎演習B 国際企業経営論 ヨーロッパの経済と企業 Economies and Business Management in Europe 北米企業経営 研究演習I 研究演習II 卒業論文 英語中期留学STL						
専	講師	志甫 啓	平成22年4月	国際地域理解入門B 国際学入門 日本経済基礎 Japanese Economy 基礎演習A 基礎演習B 国際移民論 研究演習I 研究演習II 卒業論文 英語短期留学STL						
専	講師	長友 淳	平成22年4月	国際地域理解入門B 文化人類学基礎 基礎演習A 基礎演習B Intercultural Understanding Cultures in Australia 研究演習I 研究演習II 卒業論文						
専	講師	尹 盛熙	平成22年4月	Korean I Korean II KoreanVII (Presentation) KoreanVIII (Presentation) 国際地域理解入門B 国際学入門 基礎演習A 基礎演習B 異文化間コミュニケーション論 アジア言語文化論B 日韓言語文化比較論 研究演習I 研究演習II 卒業論文 朝鮮語中期留学						
兼任	教授	Richard Irving	平成22年9月	The Geography of Japan A The Geography of Japan B			平成22年4月			担当者の都合が付き、当初平成23年4月から開講予定であった「The Geography of Japan B」を平成22年4月から開講することとなったため(22)
兼任	教授	浦 啓之	平成22年9月	英語学概論 統語論						
兼任	教授	大高 博美	平成22年9月	Japanese Linguistics						
兼任	教授	小澤 博	平成23年4月	イギリス文学史A						
兼任	教授	北山 俊哉	平成22年9月	Political Economy of Japan						
兼任	教授	柴山 太	平成22年9月	Prewar Japanese Political History						
兼任	教授	陣内 正敬	平成23年9月	対人関係とアジア言語表現 比較論						
兼任	教授	杉山 寿美子	平成23年9月	イギリス文学史B						
兼任	教授	田中 実	平成24年4月	実践英語学特殊講義						
兼任	教授	成田 静香	平成23年4月	アジアの女性とジェンダー						
兼任	教授	新聞 芳生	平成23年9月	英米文学研究法 アメリカ文学特殊講義						
兼任	教授	花岡 秀	平成24年9月	アメリカ文学特殊講義						

専任・兼任・兼任の別	届出時の計画			変更状況					備考	
	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職位	氏名(年齢)	就任予定年月		担当授業科目名
兼任	教授	平木 多賀人	平成23年4月	Japanese Financial Practices Japanese Corporate Governance	兼任	講師				平木多賀人兼任教授が平成22年3月31日付で本学を退職したため(22)
兼任	教授	藤沢 武史	平成23年4月	国際マーケティング論						
兼任	教授	Christian Hermansen	平成22年9月	Japanese History A Japanese History B				平成22年4月		担当者の都合が付き、当初平成23年4月から開講予定であった「Japanese History B」を平成22年4月から開講することとなったため(22)
兼任	教授	丸田 隆	平成22年4月	Japanese Legal System						
兼任	教授	David Methé	平成23年4月	Management in North America Management in Japan						
兼任	教授	森脇 俊雅	平成22年9月	ライフ・デザイン入門 アメリカの政治 アメリカ現代史						
兼任	教授	山本 圭子	平成23年4月	英語史 実践英語学特殊講義						
兼任	准教授	石田 寛	平成22年9月	企業倫理 Business Ethics						
兼任	准教授	楠本 紀代美	平成22年9月	英語学概論 意味論・語用論						
兼任	准教授	塚田 幸光	平成23年9月	映像・演劇文化論						
兼任	准教授	森本 郁代	平成23年9月	言語習得と日本語教育						
兼任	講師	青木 泰司	平成23年9月	北米地域論 カナダ経済史						
兼任	講師	青山 義孝	平成23年4月	アメリカ文学史A アメリカ文学史B						
兼任	講師	浅羽 良昌	平成23年4月	国際観光論 アメリカ経済史						
兼任	講師	東 龍平	平成22年4月	コンピュータ演習						
兼任	講師	足立 研幾	平成24年4月	国際ガバナンス事情 Global Governance						
兼任	講師	荒島 千鶴	平成22年9月	Introduction to International Law						
兼任	講師	池平 紀子	平成23年4月	中国思想文化論						
兼任	講師	石川 雅紀	平成23年4月	環境経済学						
兼任	講師	ウィゲン木村 裕子	平成23年4月	Canadian Foreign Policy						
兼任	講師	James West	平成22年4月	Japanese Art A Japanese Art B Religious and Traditional Rites						
兼任	講師	上田 功	平成22年4月	英語音声学 音韻論・形態論				平成23年4月	音韻論・形態論	より科目に適合した金田順平兼任講師に担当を変更したことによる担当科目の削減及び就任予定年月の変更(22)
					兼任	講師	金田 順平	平成22年9月	英語音声学	上田功兼任講師から、より科目に適合した教員に担当者を変更(22)
兼任	講師	宇山 博	平成23年4月	韓国経済論						
兼任	講師	大対 香奈子	平成22年4月	Japanese Psychology	兼任	講師	一言 英文	平成22年4月	Japanese Psychology	平成22年1月大対香奈子兼任講師就任辞退のため担当者を変更(22)
兼任	講師	柏岡 富英	平成22年9月	社会システム論基礎 American Society				平成23年4月	American Society	平成22年度より本務校学部長就任が決定したことによる担当科目の削減及び就任予定年月の変更(22)
					専	教授	丸楠 恭一	平成22年9月	社会システム論基礎	柏岡富英兼任講師が平成22年度より本務校学部長に就任するため1科目を丸楠恭一教授担当に変更(22)
兼任	講師	川崎 剛	平成23年4月	Asia-Pacific Relations						
兼任	講師	Michael J. Grubel	平成23年4月	Human Resource Management in the USA Marketing in the USA						

専任・兼任・兼任の別	届出時の計画				変更状況					備考
	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	Martin Collick	平成22年4月	企業倫理 Business Ethics Japanese Society Japanese Business A : Lecture Japanese Business B : Seminar					企業倫理 Business Ethics Japanese Business A : Lecture Japanese Business B : Seminar	より科目に適合した山本Beverley Anne兼任講師に担当者を変更(22)
					兼任	講師	山本Beverley Anne	平成22年9月	Japanese Society	Martin Collick兼任講師から、より科目に適合した教員に担当者を変更(22)
兼任	講師	近藤 伸二	平成23年9月	国際ジャーナリズム論						
兼任	講師	Alistair Seton	平成22年4月	Japanese Poetry						
兼任	講師	重松 健人	平成22年4月	フランス語 I フランス語 II フランス語 III フランス語 IV 哲学・思想基礎						
兼任	講師	David Joseph Zmijewski	平成23年9月	Cultures in the USA						
兼任	講師	城下 賢一	平成22年4月	Postwar Japanese Political History Postwar Japanese Diplomatic History						
兼任	講師	竹内 俊隆	平成22年4月	Japan's Foreign Relations						
兼任	講師	武上 真理子	平成23年4月	文化越境論						
兼任	講師	辻本 庸子	平成23年9月	北米の女性とジェンダー						
兼任	講師	出口 竜也	平成23年4月	経営人類学						
兼任	講師	鳥潟 優子	平成22年4月	国際紛争論 International Conflicts ヨーロッパ国際関係史 International Relations in Europe						
兼任	講師	永井 史男	平成23年4月	A S E A N 現代史						
兼任	講師	Faith Bach	平成22年4月	Traditional Japanese Theatre Japanese Cinema Traditional Japanese Arts Japanese Outlaws Introduction to Japanese Literature Introduction to Japanese Culture						
兼任	講師	引野 剛司	平成23年9月	日米言語文化比較論						
兼任	講師	福岡 忠雄	平成24年9月	イギリス文学特殊講義						
兼任	講師	藤岡 由佳	平成22年4月	Introduction to International Relations Introduction to Political Science Government and Politics in Japan US Foreign Policy US-Japan Relations						
兼任	講師	古森 勲	平成23年9月	アジアメディア文化論						
兼任	講師	John Houg	平成22年9月	East Asian Finance						
兼任	講師	Sally McLaren	平成23年4月	The Media Culture in North America						
兼任	講師	町田 奈々子	平成22年4月	Language and Culture in Japan A Language and Culture in Japan B						
兼任	講師	松井 朔子	平成22年4月	Modern Japanese Novels in English Translation						
兼任	講師	松木 隆	平成23年9月	統計学						
兼任	講師	馬淵 仁	平成23年9月	Contemporary Multicultural Societies						
兼任	講師	南川 文里	平成23年4月	日米交流史						
兼任	講師	蓑原 俊洋	平成22年4月	Prewar International History Prewar US-Japan Relations						
兼任	講師	武蔵 勝宏	平成22年4月	法学基礎 日本国憲法						

専任・兼任・兼任の別	届出時の計画				変更状況					備考
	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	森 秀樹	平成22年4月	コンピュータ演習						
兼任	講師	森藤 真成	平成24年4月	イギリス文学特殊講義						
兼任	講師	安田 信之	平成23年4月	アジア社会論 アジアの法						
兼任	講師	渡辺 和之	平成23年9月	多文化共生論						

(注) ・設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈表題〉を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・ 年齢は、就任年度に関わりなく、「届出時の計画」には開設時現在の満年齢を、「変更状況」には平成22年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」, 「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

(2) 専任教員数

届出時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
18	7	3	0	28	0	18	7	3	0	28	0	
(16)	(7)	(3)	(0)	(26)	(0)	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	

(注)・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成22年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
—		該当なし。	

(注)・届出時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。

(注)・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

<共通>

(1) 担当教員表

専任・兼任・兼任の別	届出時の計画				変更状況					備考
	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	王松	平成22年4月	Chinese I Chinese II Chinese III Chinese IV Chinese V (LS) Chinese VI (LS)						
専	講師	Laura Copeland	平成22年4月	English I English II English III English IV English VII (Presentation) English VIII (Presentation)						
専	講師	笹井 香	平成22年4月	Japanese I Japanese II Japanese III Japanese IV Japanese V (LS) Japanese VI (LS) Japanese V (RW) Japanese VI (RW) Japanese VIII (Presentation)						
専	講師	David Svoboda	平成22年4月	English III English IV English V (LS) English VI (LS)				平成23年4月		平成22年3月家族の健康上の理由により急遽本国に帰国することとなったため就任予定年月を平成23年4月に変更する。担当科目が平成23年度より開講する科目のため、支障はない。(22)
専	講師	竹口 智之	平成22年4月	Japanese I Japanese II Japanese III Japanese IV Japanese V (LS) Japanese VI (LS) Japanese V (RW) Japanese VI (RW) Japanese VIII (Presentation)						
専	講師	釣井 千恵	平成22年4月	English I English II English III English IV English V (RW) English VI (RW)						
専	講師	田 禾	平成22年4月	Chinese I Chinese II Chinese III Chinese IV Chinese V (LS) Chinese VI (LS)	専	講師	王安	平成22年4月	Chinese I Chinese II Chinese III Chinese IV Chinese V (LS) Chinese VI (LS)	平成21年12月田禾専任講師就任辞退のため平成22年度より担当者の変更 (22)
専	講師	ハーバート 久代	平成22年4月	English I English II English III English IV English V (RW) English VI (RW)						
専	講師	Kevin Ballou	平成22年4月	English I English II English V (LS) English VI (LS)						
専	講師	John Holthouse	平成22年4月	English I English II English V (LS) English VI (LS) English VII (Presentation) English VIII (Presentation)						
専	講師	山科 美和子	平成22年4月	English I English II English III English IV English V (RW) English VI (RW)						
専	講師	James D. Llewelyn	平成22年4月	English I English II English III English IV English V (LS) English VI (LS)	専	講師	J. Paul Marlowe	平成22年4月	English I English II English III English IV English V (LS) English VI (LS)	平成21年11月James D. Llewelyn専任講師の就任辞退による担当者の変更 (22)
兼任	講師	芦田 麻樹子	平成22年4月	Korean I Korean II Korean III Korean IV						

専任・兼任・兼任の別	届出時の計画			変更状況					備考	
	職位	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職位	氏名(年齢)	就任予定年月		担当授業科目名
兼任	講師	板垣 静香	平成23年4月	英語Ⅲ 英語Ⅳ						
兼任	講師	郭 雲輝	平成24年4月	Chinese V (RW) Chinese VI (RW)						
兼任	講師	蔭山 拓	平成22年4月	Japanese I Japanese II Japanese III Japanese IV						
兼任	講師	金 世徳	平成23年4月	Korean III Korean IV Korean V (LS) Korean VI (LS)						
兼任	講師	小林 貴徳	平成22年4月	スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ						
兼任	講師	任 鷹	平成24年4月	Chinese V (RW) Chinese VI (RW)						
兼任	講師	孫 輝	平成22年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ						
兼任	講師	孫 才喜	平成22年4月	朝鮮語Ⅰ 朝鮮語Ⅱ 朝鮮語Ⅲ 朝鮮語Ⅳ	兼任	講師	平井 清実	平成22年4月	朝鮮語Ⅰ 朝鮮語Ⅱ 朝鮮語Ⅲ 朝鮮語Ⅳ	平成22年1月孫 才喜兼任講師就任辞退のため平成22年度より担当者の変更(22)
兼任	講師	鄭 東憲	平成24年9月	Korean V (RW) Korean VI (RW)						
兼任	講師	徳永 雅	平成22年4月	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ						
兼任	講師	Jordi Tordera	平成22年4月	スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ						
兼任	講師	中西 弘	平成23年4月	English III English IV						
兼任	講師	野村 登美子	平成22年4月	Japanese I Japanese II Japanese III Japanese IV						
兼任	講師	原 由起子	平成22年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ						
兼任	講師	傅 建良	平成22年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ						
兼任	講師	苞山 武義	平成22年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ						
兼任	講師	宗像 まさ子	平成22年4月	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ						
兼任	講師	森 宏子	平成22年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ						
兼任	講師	榎 玉壺	平成22年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ						
兼任	講師	李 長波	平成25年4月	Chinese VII (Presentation) Chinese VIII (Presentation)						
兼任	講師	柳 圭相	平成22年4月	Korean I Korean II Korean VII (Presentation) Korean VIII (Presentation) 朝鮮語Ⅰ 朝鮮語Ⅱ 朝鮮語Ⅲ 朝鮮語Ⅳ						

(注) ・設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈表題〉を「共通」とし、表を分けて作成してください。

・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。

・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。

・年齢は、就任年度に関わりなく、「届出時の計画」には開設時現在の満年齢を、「変更状況」には平成22年5月1日現在の満年齢を記入してください。

・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

(2) 専任教員数

届出時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
0	0	12	0	12	0	0	0	12	0	12	0	専任講師1名の就任が1年遅延。専任講師2名が就任辞退。後任は採用済み。(22)
(0)	(0)	(12)	(0)	(12)	(0)	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	

(注)・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成22年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1	講師	James D. Lewelyn	母国であるオーストラリア政府の専任職が決まったため。
2	講師	田 禾	本学経済学部専任教員への就任が決まったため。

(注)・届出時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

James講師は、母国であるオーストラリア政府の専任職が急遽決定し帰国することとなったため、やむを得ないとする。履修手続き、時間割等、教務関連資料作成前に担当者変更を行ったため学生への影響はない。
田講師は、本学経済学部専任教員への就任が決定したため、やむを得ないとする。履修手続き、時間割等、教務関連資料作成前担当者変更を行ったため学生への影響はない。

(注)・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (22年2月)	該当なし。		

- (注) ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- ・ 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<国際学部 国際学科>

(1) 設置計画変更事項等

届出時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>5 授業科目の概要 言語教育科目 第1外国語初級 「English I」 週に4回開講されるこの授業では、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングといった英語四技能の基礎的能力の育成を目指す。担当者は原則として日本人教員および英語ネイティブ教員であり、前者は精読を中心としたリーディング、後者は多読・速読等を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの授業を担当する。普通教室と同時にPC教室を使用し、マルチメディアを駆使した語学教育を行う。 (長谷尚弥 専任教授) (釣井千恵 専任講師) (山科美和子 専任講師) (ハーバート久代 専任講師) (Laura Copeland 専任講師) (John Holthouse 専任講師) (Kevin Ballou 専任講師) (James D. Llewelyn 専任講師)</p> <p>「English II」 週に4回開講されるこの授業では、「English I」に引き続き、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングといった英語四技能の基礎的能力の育成を目指す。担当者は原則として日本人教員および英語ネイティブ教員であり、前者は精読を中心としたリーディング、後者は多読・速読等を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの授業を担当する。普通教室と同時にPC教室を使用し、マルチメディアを駆使した語学教育を行う。 (長谷尚弥 専任教授) (釣井千恵 専任講師) (山科美和子 専任講師) (ハーバート久代 専任講師) (Laura Copeland 専任講師) (John Holthouse 専任講師) (Kevin Ballou 専任講師) (James D. Llewelyn 専任講師)</p>	<p>週に4回開講されるこの授業では、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングといった英語四技能の基礎的能力の育成を目指す。担当者は日本人教員および英語ネイティブ教員であり、前者は精読や多読を中心としたリーディング、後者はライティング、リスニング、スピーキングの授業を担当する。普通教室と同時にPC教室を使用し、マルチメディアを駆使した語学教育を行う。 (長谷尚弥 専任教授) (釣井千恵 専任講師) (山科美和子 専任講師) (ハーバート久代 専任講師) (Laura Copeland 専任講師) (John Holthouse 専任講師) (Kevin Ballou 専任講師) (<u>J. Paul Marlowe</u> 専任講師) <担当者の変更></p> <p><変更理由> 本授業科目は共同担当で、週4回の授業を1クラスあたり2～4名で行い一人あたり週1～3回の授業を行う。当初日本人教員がリーディングを、英語ネイティブ教員がリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを担当する予定であったが、より教育効果を考えリーディングは日本人教員のみとし、英語ネイティブ教員はライティング、リスニング、スピーキングを担当することとした。</p> <p>週に4回開講されるこの授業では、「English I」に引き続き、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングといった英語四技能の基礎的能力の育成を目指す。担当者は日本人教員および英語ネイティブ教員であり、前者は精読や多読を中心としたリーディング、後者はライティング、リスニング、スピーキングの授業を担当する。普通教室と同時にPC教室を使用し、マルチメディアを駆使した語学教育を行う。 (長谷尚弥 専任教授) (釣井千恵 専任講師) (山科美和子 専任講師) (ハーバート久代 専任講師) (Laura Copeland 専任講師) (John Holthouse 専任講師) (Kevin Ballou 専任講師) (<u>J. Paul Marlowe</u> 専任講師) <担当者の変更></p> <p><変更理由> 本授業科目は共同担当で、週4回の授業を1クラスあたり2～4名で行い一人あたり週1～3回の授業を行う。当初日本人教員がリーディングを、英語ネイティブ教員がリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを担当する予定であったが、より教育効果を考えリーディングは日本人教員のみとし、英語ネイティブ教員はライティング、リスニング、スピーキングを担当することとした。</p>

<p>「EnglishⅢ」</p> <p>週に4回開講されるこの授業では、「EnglishⅡ」に引き続き、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングといった英語四技能の発展的能力の育成を目指す。担当者は原則として日本人教員および英語ネイティブ教員であり、前者は精読を中心としたリーディング、後者は多読・速読等を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの授業を担当する。普通教室と同時にPC教室を使用し、マルチメディアを駆使した語学教育を行う。</p> <p>(釣井千恵 専任講師) (中西弘 兼任講師) (山科美和子 専任講師) (ハーバート久代 専任講師) (James D. Llwyn 専任講師) (David Svoboda 専任講師) (Laura Copeland 専任講師)</p>	<p>週に4回開講されるこの授業では、「EnglishⅡ」に引き続き、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングといった英語四技能の発展的能力の育成を目指す。担当者は日本人教員および英語ネイティブ教員であり、前者は精読や多読を中心としたリーディング、後者はライティング、リスニング、スピーキングの授業を担当する。普通教室と同時にPC教室を使用し、マルチメディアを駆使した語学教育を行う。</p> <p>(釣井千恵 専任講師) (中西弘 兼任講師) (山科美和子 専任講師) (ハーバート久代 専任講師) (J. Paul Marlowe 専任講師) <担当者の変更> (David Svoboda 専任講師) (Laura Copeland 専任講師)</p> <p><変更理由> 本授業科目は共同担当で、週4回の授業を1クラスあたり2～3名で行い一人あたり週1～3回の授業を行う。当初日本人教員がリーディングを、英語ネイティブ教員がリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを担当する予定であったが、より教育効果を考えリーディングは日本人教員のみとし、英語ネイティブ教員はライティング、リスニング、スピーキングを担当することとした。</p>
<p>EnglishⅣ</p> <p>週に4回開講されるこの授業では、「EnglishⅢ」に引き続き、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングといった英語四技能の発展的能力の育成を目指す。担当者は原則として日本人教員および英語ネイティブ教員であり、前者は精読を中心としたリーディング、後者は多読・速読等を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの授業を担当する。普通教室と同時にPC教室を使用し、マルチメディアを駆使した語学教育を行う。</p> <p>(釣井千恵 専任講師) (中西弘 兼任講師) (山科美和子 専任講師) (ハーバート久代 専任講師) (James D. Llwyn 専任講師) (David Svoboda 専任講師) (Laura Copeland 専任講師)</p>	<p>週に4回開講されるこの授業では、「EnglishⅢ」に引き続き、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングといった英語四技能の発展的能力の育成を目指す。担当者は原則として日本人教員および英語ネイティブ教員であり、前者は精読や多読を中心としたリーディング、後者はライティング、リスニング、スピーキングの授業を担当する。普通教室と同時にPC教室を使用し、マルチメディアを駆使した語学教育を行う。</p> <p>(釣井千恵 専任講師) (中西弘 兼任講師) (山科美和子 専任講師) (ハーバート久代 専任講師) (J. Paul Marlowe 専任講師) <担当者の変更> (David Svoboda 専任講師) (Laura Copeland 専任講師)</p> <p><変更理由> 本授業科目は共同担当で、週4回の授業を1クラスあたり2～3名で行い一人あたり週1～3回の授業を行う。当初日本人教員がリーディングを、英語ネイティブ教員がリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを担当する予定であったが、より教育効果を考えリーディングは日本人教員のみとし、英語ネイティブ教員はライティング、リスニング、スピーキングを担当することとした。</p>
<p>「Chinese I」</p> <p>目標は二つある。一つは、中国語の発音を徹底的に習得させ、中国語母語話者とほぼ同じような発音ができること、もう一つは、中国語における最も基本的な表現である、判断文、存在所有文、形容詞述語文、動詞述語文や時間表現の基本を習得し、それをベースに簡単な「聞く・話す・読む・書く」ことができるようにすることである。中国語は、道具として位置づけ、理論的説明を中心とせず、教員はコーチの役割を果たし、四技能の訓練を繰り返すことによって、目標が達成されることを目指す。</p> <p>(田禾 専任講師) (王松 専任講師)</p> <p>「Chinese II」</p> <p>四技能の訓練を中心に、より複雑な中国語の時間表現や可能表現、希望表現、比較表現、把構文、受身文、使役文、複雑述語(結果補語、方向補語、様態補語、可能補語、数量補語、前置詞フレーズ補語)などを用いる表現の基本を習得し、視覚教材も併用しながら日常生活や対人的コミュニケーションに最も必要とされる中国語表現の基礎を習得することを目標とする。いろいろなコミュニケーションの場面を想定しながら、試行錯誤のうちに、情報の伝達や気持ちの表出がほほほできるように、道具としての中国語を自分の手で形成していく。</p> <p>(田禾 専任講師) (王松 専任講師)</p>	<p>目標は二つある。一つは、中国語の発音を徹底的に習得させ、中国語母語話者とほぼ同じような発音ができること、もう一つは、中国語における最も基本的な表現である、判断文、存在所有文、形容詞述語文、動詞述語文や時間表現の基本を習得し、それをベースに簡単な「聞く・話す・読む・書く」ことができるようにすることである。中国語は、道具として位置づけ、理論的説明を中心とせず、教員はコーチの役割を果たし、四技能の訓練を繰り返すことによって、目標が達成されることを目指す。</p> <p>(王安 専任講師) <担当者の変更> (王松 専任講師)</p> <p>四技能の訓練を中心に、より複雑な中国語の時間表現や可能表現、希望表現、比較表現、把構文、受身文、使役文、複雑述語(結果補語、方向補語、様態補語、可能補語、数量補語、前置詞フレーズ補語)などを用いる表現の基本を習得し、視覚教材も併用しながら日常生活や対人的コミュニケーションに最も必要とされる中国語表現の基礎を習得することを目標とする。いろいろなコミュニケーションの場面を想定しながら、試行錯誤のうちに、情報の伝達や気持ちの表出がほほほできるように、道具としての中国語を自分の手で形成していく。</p> <p>(王安 専任講師) <担当者の変更> (王松 専任講師)</p>

<p>「ChineseⅢ」 四技能を中心に、複雑述語（結果補語、方向補語、様態補語、可能補語、数量補語、前置詞フレーズ補語）を用いる表現を徹底的に習得し、視覚教材も併用しながら日常生活や対人的コミュニケーションに必要とされるより高度な中国語の表現を習得することを目標とする。いろいろなコミュニケーションの場面を想定しながら、試行錯誤のうちに、ほぼ正確に情報の記録や伝達、話し手の気持ちの表出ができるように、道具としての中国語を自分の手で形成していく。</p> <p>(田禾 専任講師) (王松 専任講師)</p>	<p>四技能を中心に、複雑述語（結果補語、方向補語、様態補語、可能補語、数量補語、前置詞フレーズ補語）を用いる表現を徹底的に習得し、視覚教材も併用しながら日常生活や対人的コミュニケーションに必要とされるより高度な中国語の表現を習得することを目標とする。いろいろなコミュニケーションの場面を想定しながら、試行錯誤のうちに、ほぼ正確に情報の記録や伝達、話し手の気持ちの表出ができるように、道具としての中国語を自分の手で形成していく。</p> <p>(王安 専任講師) <担当者の変更> (王松 専任講師)</p>
<p>「ChineseⅣ」 四技能を中心に、複雑な表現を駆使しながら、より正確に情報の記録や伝達、話し手の気持ちの表出ができるように、日常生活や対人的コミュニケーションに必要とされる高度な中国語の表現を習得することを目標とする。「聞く・話す・読む・書く」といった四技能の基本を身につけ、実際に中国に行っても基本的なコミュニケーションが取れるように、また、検定試験なら、中国語検定試験2級またはHSK4級のレベルに達し、使える中国語の習得を目指す。</p> <p>(田禾 専任講師) (王松 専任講師)</p>	<p>四技能を中心に、複雑な表現を駆使しながら、より正確に情報の記録や伝達、話し手の気持ちの表出ができるように、日常生活や対人的コミュニケーションに必要とされる高度な中国語の表現を習得することを目標とする。「聞く・話す・読む・書く」といった四技能の基本を身につけ、実際に中国に行っても基本的なコミュニケーションが取れるように、また、検定試験なら、中国語検定試験2級またはHSK4級のレベルに達し、使える中国語の習得を目指す。</p> <p>(王安 専任講師) <担当者の変更> (王松 専任講師)</p>
<p>「ChineseⅤ (LS)」 日常的なコミュニケーションに必要な日常会話や一般向けのラジオ番組、テレビ番組の内容を6割以上聞き取り理解すること、また、日常生活や基本的な対人的コミュニケーションに必要な内容をほぼ正確に表現し、言いたいことをほぼ的確に相手に伝えることができるようになることを目標とする。更に(1)自分の意見や疑問を適切に相手に伝える力、(2)相手の疑問や意見を傾聴する力、(3)議論を適切かつ合理的に進める力の3つの力を養うことを目的とする。</p> <p>(田禾 専任講師) (王松 専任講師)</p>	<p>日常的なコミュニケーションに必要な日常会話や一般向けのラジオ番組、テレビ番組の内容を6割以上聞き取り理解すること、また、日常生活や基本的な対人的コミュニケーションに必要な内容をほぼ正確に表現し、言いたいことをほぼ的確に相手に伝えることができるようになることを目標とする。更に(1)自分の意見や疑問を適切に相手に伝える力、(2)相手の疑問や意見を傾聴する力、(3)議論を適切かつ合理的に進める力の3つの力を養うことを目的とする。</p> <p>(王安 専任講師) <担当者の変更> (王松 専任講師)</p>
<p>「ChineseⅥ (LS)」 日常的なコミュニケーションに必要な日常会話や一般向けのラジオ番組、テレビ番組の内容を6割以上聞き取り理解すること、また、日常生活や基本的な対人的コミュニケーションに必要な内容をほぼ正確に表現し、言いたいことをほぼ的確に相手に伝えることができるようになることを目標とする。更に(1)自分の意見や疑問を適切に相手に伝える力、(2)相手の疑問や意見を傾聴する力、(3)議論を適切かつ合理的に進める力の3つの力を養うことを目的とする。また、検定試験なら、中国語検定試験1級またはHSK6級のレベルに達することを目指す。</p> <p>(田禾 専任講師) (王松 専任講師)</p>	<p>日常的なコミュニケーションに必要な日常会話や一般向けのラジオ番組、テレビ番組の内容を6割以上聞き取り理解すること、また、日常生活や基本的な対人的コミュニケーションに必要な内容をほぼ正確に表現し、言いたいことをほぼ的確に相手に伝えることができるようになることを目標とする。更に(1)自分の意見や疑問を適切に相手に伝える力、(2)相手の疑問や意見を傾聴する力、(3)議論を適切かつ合理的に進める力の3つの力を養うことを目的とする。また、検定試験なら、中国語検定試験1級またはHSK6級のレベルに達することを目指す。</p> <p>(王安 専任講師) <担当者の変更> (王松 専任講師)</p>
<p>「朝鮮語Ⅰ」 入門朝鮮語学習における聞く、話す、読む、書く、の四技能の総合的な学習によって、朝鮮語の文字や発音の仕方をはじめとするもっとも基礎的な朝鮮語能力を身につけることを目標とする。授業は、朝鮮語のネイティブ教員2名のペアによるチーム・ティーチングで行われる。</p> <p>(孫才喜 兼任講師) (柳圭相 兼任講師)</p>	<p>入門朝鮮語学習における聞く、話す、読む、書く、の四技能の総合的な学習によって、朝鮮語の文字や発音の仕方をはじめとするもっとも基礎的な朝鮮語能力を身につけることを目標とする。授業は、朝鮮語のネイティブ教員2名のペアによるチーム・ティーチングで行われる。</p> <p>(平井清実 兼任講師) <担当者の変更> (柳圭相 兼任講師)</p>
<p>「朝鮮語Ⅱ」 入門朝鮮語で学んだ基礎的な朝鮮語知識をもとに、初級レベルの聞く、話す、読む、書く、の四技能の完成を目指す。「朝鮮語Ⅰ」に引き続き、朝鮮語の文字や発音の仕方をはじめとする基礎的な朝鮮語能力を身につける。授業は、朝鮮語のネイティブ教員2名のペアによるチーム・ティーチングで行われる。</p> <p>(孫才喜 兼任講師) (柳圭相 兼任講師)</p>	<p>入門朝鮮語で学んだ基礎的な朝鮮語知識をもとに、初級レベルの聞く、話す、読む、書く、の四技能の完成を目指す。「朝鮮語Ⅰ」に引き続き、朝鮮語の文字や発音の仕方をはじめとする基礎的な朝鮮語能力を身につける。授業は、朝鮮語のネイティブ教員2名のペアによるチーム・ティーチングで行われる。</p> <p>(平井清実 兼任講師) <担当者の変更> (柳圭相 兼任講師)</p>

「朝鮮語Ⅲ」
 「朝鮮語Ⅰ」、「朝鮮語Ⅱ」で学んだ、基礎的な朝鮮語知識と中級レベルの聞く・話す・読む・書くの四技能をもとに、中級レベルの朝鮮語運用能力を身につけることによって、日常生活におけるコミュニケーション能力を高めるとともに朝鮮文化への理解にも努める。授業は、朝鮮語ネイティブ教員2名のペアによるチーム・ティーチングで行われる。
 (孫才喜 兼任講師)
 (柳圭相 兼任講師)

「朝鮮語Ⅳ」
 「朝鮮語Ⅰ」、「朝鮮語Ⅱ」で学んだ、基礎的な朝鮮語知識と中級レベルの聞く・話す・読む・書くの四技能をもとに、中級レベルの朝鮮語運用能力を身につけることによって、日常生活におけるより円滑なコミュニケーション能力を高めるとともに、さらに朝鮮文化への理解に努める。授業は、朝鮮語のネイティブ教員2名のペアによるチーム・ティーチングで行われる。
 (孫才喜 兼任講師)
 (柳圭相 兼任講師)

7 学則

第1章総則のための備考
 1 第1条第2項に定める別表を次のとおりとする。
 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
 (略)

第3章教育課程のための備考
 (略)

国際学部

プログラム名	選択必修	選択1	選択2 / 選択3	合計
国際学	8	12	20	40

(略)

「朝鮮語Ⅰ」、「朝鮮語Ⅱ」で学んだ、基礎的な朝鮮語知識と中級レベルの聞く・話す・読む・書くの四技能をもとに、中級レベルの朝鮮語運用能力を身につけることによって、日常生活におけるコミュニケーション能力を高めるとともに朝鮮文化への理解にも努める。授業は、朝鮮語ネイティブ教員2名のペアによるチーム・ティーチングで行われる。
 (平井清実 兼任講師) <担当者の変更>
 (柳圭相 兼任講師)

「朝鮮語Ⅰ」、「朝鮮語Ⅱ」で学んだ、基礎的な朝鮮語知識と中級レベルの聞く・話す・読む・書くの四技能をもとに、中級レベルの朝鮮語運用能力を身につけることによって、日常生活におけるより円滑なコミュニケーション能力を高めるとともに、さらに朝鮮文化への理解に努める。授業は、朝鮮語のネイティブ教員2名のペアによるチーム・ティーチングで行われる。
 (平井清実 兼任講師) <担当者の変更>
 (柳圭相 兼任講師)

第1章総則のための備考

1 第1条第2項に定める別表を次のとおりとする。
 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
 (略)

国際学部	国際学	国際学部は、「国際性の涵養」を教育・研究上の理念とし、その理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的とする。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解、国際理解のための能力)と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成する。よって本学部のモットーを「Be a world citizen who renders service to humanity.」とする。 「国際事情に関する課題の理解と分析」という教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようになることである。本学部の特色は、タテの学問領域(文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営)に含まれる複数のディシプリン間の相乗効果を用い、ヨコの地域別研究コース(北米研究、アジア研究)を「学際的に」教育・研究し、それによって柔軟で、幅広い視野に立った世界理解、国際理解を図るところにあり、その教育・研究全体を「国際学」と位置づける。
------	-----	---

<変更理由>

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を明文化するため追加する。

第3章教育課程のための備考
 (略)

国際学部

プログラム名	選択必修1	選択必修2	選択必修3	合計
国際学	8	16	16	40

(略)

<変更理由>

副専攻課程に言語教育科目を追加し、選択必修単位数を変更することにより、副専攻課程を充実するため。

<p>10 設置の趣旨等を記載した書類 Ⅷ入学選抜の概要 2 選抜方法</p> <p>③A0入学試験 本学部に強い関心を持ち、学習意欲とともに、1. 外国語の運用能力や、2. 海外における経験・体験を有する者、3. 日本文化に関して秀でた体験や経験を有する者、4. 英語を母語とする者もしくは一定の英語能力を有する外国人、5. 社会人を対象とするA0入学試験を実施する。 (略)</p> <p>⑥外国人留学生試験 外国人留学生試験により、外国人留学生の受け入れを図るとともに、これに付随して日本に在留する外国人をも対象とした入学試験を行う。この入学試験においては、日本語の運用能力を出願資格として前提にする者を対象にした制度と、英語の運用能力を出願資格として定めた制度を準備し、学部所属学生の国際化を図る。</p> <p>XⅢ情報の提供 1 大学としての取り組み (略) この他、教職員、学生を対象に財政状況を伝えるため『K. G. Campus Record』を年2回発行している。</p>	<p>③A0入学試験 本学部に強い関心を持ち、学習意欲とともに、1. 外国語の運用能力や、2. 海外における経験・体験を有する者、3. 日本文化に関して秀でた体験や経験を有する者、4. 英語を母語とする者もしくは一定の英語能力を有する外国人、4. 社会人を対象とするA0入学試験を実施する。 (略)</p> <p>⑥外国人留学生試験 外国人留学生試験により、外国人留学生の受け入れを図るとともに、これに付随して日本に在留する外国人をも対象とした入学試験を行う。この入学試験においては、日本語の運用能力を出願資格として前提にする者を対象にした制度と、英語の運用能力を出願資格として定めた制度を準備し、学部所属学生の国際化を図る。</p> <p><変更理由> 「4. 英語を母語とする者もしくは一定の英語能力を有する外国人」は平成23年度からA0入学試験ではなく外国人留学生入学試験で対応するため。</p> <p>(略) この他、「<u>事業報告書</u>」をホームページ上に公開し、<u>本学の現況(事業方針、事業概要、財務状況)を開示している。</u></p> <p><変更理由> 平成22年度より『K. G. Campus Record』を廃止。本学の現況(事業方針、事業概要、財務状況)については、「<u>事業報告書</u>」をホームページ上に公開し、開示している。</p>
--	--

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、届出時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置届出書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

・全学的な組織として、教務委員会のもとに、ファカルティ・ディベロップメント（以下、FD）部会を設置しているが、平成22年度より総合教育研究室と情報メディアセンターを統合した高等教育推進センターを設置し、教育力向上（FD）専門部会を設置するため、教務委員会のもとでのFD部会は廃止する。なお、現行教務委員会規程は平成22年4月16日開催教務委員会において一部改正し、5月7日から改正施行の予定。別紙に現行の「教務委員会規程」及び「高等教育推進センター規程」を添付。

・国際学部内には、教員の資質の維持向上のために、国際学部FD委員会を設置した。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

・教務委員会は月1回開催、委員は各学部教務主任等で構成されている。FD部会は随時開催で平成21年度は4回開催した。委員は各学部教務副主任等で構成されている。

・国際学部FD委員会は開設後、平成22年4月14日、21日に2回開催した。今後、7月、10月、1月に開催予定。

c 委員会の審議事項等

・教務委員会は、別紙現行「教務委員会規程」第6条に記載のとおり、全学科目の開講と担当者に関する事項、全学科目の非常勤講師の採用審査に関する事項、授業実施に関する事項、定期・中間試験実施に関する事項、全学に共通する教務上の様式に関する事項、不測事態への対応体制に関する事項等を議決する。FD部会は現行の「教務委員会規程」第9条に規定されているとおり、授業の内容及び方法の充実と向上を図るための施策を全学的に協議する。

・国際学部FD委員会では、以下の5項目について審議した。

- (1) 教授法に関する研修会、FD研究会（基礎演習のあり方）の実施
- (2) 教員相互授業参観
- (3) 学生インタビュー（ゼミ長、外国人留学生英語話者、外国人留学生日本語話者対象）
- (4) 学習アドバイザー研修会
- (5) 授業評価アンケート（現行大学全体で実施のもの）

② 実施状況 ※実施されている取組を全て記載すること。

a 実施内容

・学生による授業評価アンケート（全学）

・新任教員研修（全学）

・FD活動報告書「総研ニューズレター」の発行（全学）

・HP「教育改善・FDへの取組み」運営（全学）

・FDに関する意識調査（全学）

・国際学部では、上記の国際学部FD委員会での審議内容のうち、以下の項目について実施及び実施検討した。

なお、番号は上記審議事項の番号に対応している。

- (1) 教授法に関する研修会を6月2日16:50から「スタディスキルとライティングスキル指導について（予定）」の題目で櫻田大造教授の報告と、質疑応答を実施する。また、FD研究会（基礎演習のあり方）を7月21日に実施する。
- (2) 教員相互授業参観については、「国際理解入門A」、「国際理解入門B」、「国際学入門」の授業を専任教員が相互に参観し、その感想・コメント等を担当教員に提出し、その後意見交換会を実施する。
- (3) 学生インタビューを5月に実施予定。「基礎演習」のゼミ長、外国人留学生英語話者、外国人留学生日本語話者の3つのグループに分けて実施する。
- (4) 本学部では、学習アドバイザー制度を設けている。これは「基礎演習A」、「基礎演習B」、「Basic Seminar A」、「Basic Seminar B」の担当教員が、各学生の進みたい進路を踏まえ、2年次以降の適切なコース科目の履修について指導する制度である。この制度を円滑に運営するために、専任教員を対象に、学習アドバイザー研修会を今年度中に実施する予定である。

b 実施方法

・学生による授業評価アンケートは、平成17年度より全学的に統一された方式により全ての開講科目について実施している。全学統一方式は3年ごとに実施しており、第2回目は平成20年度に実施した。3年ごとの全学統一方式の実施年に挟まれた2年間（中間年）は、授業改善期間と位置付け、全学統一方式による授業評価の結果を踏まえ、個々の教員が授業改善に役立つような授業評価を行う。実施方法は、全学統一方式のアンケート用紙あるいはミニツツペーパーなど独自の方法のいずれかを教員が選択することになっている。また中間年には、総合教育研究室が作成した形式で、希望する教員を対象とした授業評価アンケートを継続的に行っている。

・新任教員研修は、毎年度初めに法人及び大学の役職者が大学の歴史や組織、研究関連諸制度等について新任教員オリエンテーションとして行っている。

・各学部のFD委員会が1年間取り組んだことについて、教務部に活動報告書を提出する。活動報告書はまとめて総合教育研究室から「総研ニューズレター」として発行している。なお、今後は高等教育推進センターからニューズレターを発行する。

・大学のホームページにFD関連サイトを開設し、これまで総合教育研究室が行ってきたFDに関する講演会や研究会の講演要旨や、今後開催される講演会・研究会等の情報を掲出している。

・平成20年にFDに関する意識調査を実施した。回収後、学内の総合教育研究室において内容を分析した。

・国際学部の上記実施内容の実施方法については、以下のとおりである。

なお、番号は上記審議事項の番号に対応している。

- (1) 教授法に関する研修会を6月2日16:50から「スタディスキルとライティングスキル指導について（予定）」の題目で櫻田大造教授の報告と、質疑応答を実施する。また、FD研究会（基礎演習のあり方）を7月21日に実施する。
- (2) 教員相互授業参観については、「国際理解入門A」、「国際理解入門B」、「国際学入門」の授業を専任教員が相互に参観し、その感想・コメント等を担当教員に提出し、その後意見交換会を実施する。
- (3) 学生インタビューを5月に実施予定。「基礎演習」のゼミ長、外国人留学生英語話者、外国人留学生日本語話者の3つのグループに分けて実施する。
- (4) 本学部では、学習アドバイザー制度を設けている。これは「基礎演習A」、「基礎演習B」、「Basic Seminar A」、「Basic Seminar B」の担当教員が、各学生の進みたい進路を踏まえ、2年次以降の適切なコース科目の履修について指導する制度である。この制度を円滑に運営するために、専任教員を対象に、学習アドバイザー研修会を今年度中に実施する予定である。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

・学生による授業評価アンケートは、平成21年度は中間年として春学期・秋学期に全開講科目を対象に実施した。

・新任教員オリエンテーションは、毎年度初めに1回実施。新任教員が全員参加。平成22年度からは、関西学院が全新任者を対象とした学院紹介などを含むオリエンテーションプログラム、従来から行われていた人権研修プログラムに、新たに研修プログラムを加え、新任者研修プログラムとして体系化し、全学的なFDへの取組として実施する。

・平成21年度に各学部のFD委員会が1年間取り組んだことについて、FD活動報告書として総合教育研究室から「総研ニューズレターVol. 9」を発行した。なお、今後は高等教育推進センターからニューズレターを発行する。

・大学ホームページのFDサイト「教育改善・FDへの取組み」に、これまで総合教育研究室が行ってきたFDに関する講演会や研究会の講演要旨や、今後学内の部課で開催される講演会・研究会等の情報を掲出している。

・平成20年にFDに関する意識調査を実施した。回収後、学内の総合教育研究室において内容を分析した。その結果を踏まえ、大学として、今後どのようにFD活動を推進していくか検討中である。

・国際学部では、平成22年度はFD委員会を4月14日、21日に委員4名事務2名により開催し、今年度実施事項について検討した。

- (1) ~ (4)については平成22年5月1日現在で未実施である。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・学生による授業評価アンケートの結果を分析し、各教員に報告している。中間年はアンケート結果を踏まえ、教員各自による授業評価アンケートを行い、授業改善に取り込むこととしている。

・国際学部における平成23年度以降のFD関連活動は、平成22年度の実施結果を踏まえ改善する。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

国際学部は、「国際性の涵養」を教育・研究上の理念とし、その理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的とする。その目的の達成を通じて、「国際性」（世界理解、国際理解のための能力）と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成する。よって本学部のモットーを「Be a world citizen who renders service to humanity.」とする。

「国際事情に関する課題の理解と分析」という教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度（特に人文・社会科学の観点）から理解し、分析できるようになることである。本学部の特色は、タテの学問領域（文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営）に含まれる複数のディシプリン間の相乗効果を用い、ヨコの地域別研究コース（北米研究、アジア研究）を「学際的に」教育・研究し、それによって柔軟で、幅広い視野に立った世界理解、国際理解を図るところにあり、その教育・研究全体を「国際学」と位置づける。

本学部のこうした人材の養成に関する目的および教育研究上の目的が受験生や保護者に理解され受け入れられたことに加え、初年度効果ということもあり、平成22年度入試では、入学定員300人に対して、志願者数2,561人、受験者数2,508人、合格者数498人であり、283人が入学した。入学者は入学定員の300人を割り込んだが、志願者は十分に確保できており、次年度は今年度の歩留まり率を参考に定員を確保するよう留意する。

また上記のような人材の養成を行うため、本学部の教育課程における科目区分は、キリスト教科目、言語教育科目、国際基礎科目、国際専門科目、領域関連科目、自由履修科目としている。国際基礎科目は、入門的科目を第1類、基礎的科目を第2類、基礎演習科目を第3類とする。国際専門科目は、共通科目、北米研究コース科目、アジア研究コース科目、研究演習科目とする。以上を系統的かつ計画的に履修できるように年次ごとに配当したカリキュラム構成としている。

国際学部の設置の趣旨・目的を実現するために、国際学部の教員組織、教育課程を編成したが、未開講の2科目を除き、すべての科目を適正な規模で開講し、順調にスタートすることができたと考える。次年度以降も学年進行に従い、教員組織、教育課程をはじめとする設置計画を確実に履行していきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

(i) 平成21年度の自己点検・評価の内容については、平成22年4月30日公表。

(ii) 認証評価の対象となる報告書については、平成26年3月31日公表予定。

b 公表方法

上記(i)については、ホームページにて公表。

上記(ii)については、「関西学院大学自己点検・評価報告書」の刊行及びCDの配付、ホームページにて公表予定。

③ 認証評価を受ける計画

・平成25年度に認証評価機関（大学基準協会）の機関別認証評価受審予定。

(注) ・届出時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表予定時期 (平成22年 9月 1日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.kwansei.ac.jp/Contents?cnid=6752>)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。
なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。

教務委員会規程

(目的)

第1条 教務上の事項について、全学的な連絡・調整、並びに協議、決定することを目的として教務委員会(以下、「委員会」という。)を置く。

(構成)

第2条 委員会は次の各号の委員をもって構成し、委員長は教務部長とする。ただし、教務部長に差し支えあるときは、教務副部長がこれを代行する。

1 教務部長

2 教務副部長

3 各学部教務主任

教務主任に差し支えあるときは、教務副主任がこれを代行する。ただし、教務副主任が置かれていない学部については、学部が指定する委員とする。

4 教職教育研究センター副長(1名)

5 言語教育研究センター副長(1名)

6 スポーツ科学・健康科学教育プログラム室長

7 人権教育研究室副室長

8 キリスト教と文化研究センター副長(1名)

9 情報メディア教育センター副長(1名)

10 国際教育プログラム室副室長

11 キャリア教育プログラム室室長

12 教務部長が指名した委員(若干名)

2 教務課長、生涯学習課長、キャンパス自立支援課長、教務課主任、各学部事務長、吉岡記念館事務室課長(神学部担当)、神戸三田キャンパス事務室課長(理工学部担当、総合政策学部担当)、聖和キャンパス事務室課長(教育学部担当)、及び委員長が必要と認めたものは、職務上出席する。

(任期)

第3条 委員の任期は前条に定めるものがその職にある期間とする。ただし、前条第8号の委員の任期は1年とする。

(定足数・議決数)

第4条 委員会は委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数をもって決する。

(開催)

第5条 委員会は原則として月1回開催する。ただし、委員長が必要と認めた場合、又は委員の過半数から要求があった場合は、臨時に開催する。

(議決事項)

第6条 委員会は、次の事項を議決する。

- 1 全学科目(総合コース、センター等が提供する科目)の開講と担当者に関する事項
 - 2 全学科目の非常勤講師の採用審査に関する事項
 - 3 授業実施に関する事項
 - イ 学部総合コース等の全学共通基準の策定
 - ロ その他全学に共通する事項
 - 4 定期・中間試験実施に関する事項
 - イ 全学に共通する事項
 - 5 全学に共通する教務上の様式に関する事項
 - 6 不測事態への対応体制に関する事項
 - イ 授業実施
 - ロ 試験実施
 - 7 大学評議会から委任された事項
 - 8 その他委員会が必要と認める事項
- 2 委員会が必要と認めた事項については大学評議会に報告し、承認を得る。又、委員会は大学評議会に提案することができる。

(専門部会)

第7条 委員会は必要に応じ、専門部会をおくことができる。

- 2 専門部会は、本委員会委員、学部教務副主任(又は学部選出委員)のうちから委員会において選出された委員をもって構成する。ただし、委員長が必要と認めた場合は、委員会の議を経てこれら以外から委員を選出することができる。
- 3 専門部会の委員の任期は、1年とする。
- 4 専門部会は、委員会から委任された事項について協議する。

(総合コース運営部会)

第8条 総合コースの企画・立案及び運営を行うために、常設の専門部会として総合コース運営部会を置く。

- 2 総合コース運営部会は、次の各号をもって構成する。
 - 1 教務部長(部会長)
 - 2 教務副部長(1名)
 - 3 学部教務主任又は学部教務副主任
 - 4 人権教育研究室副室長(1名)
 - 5 総合教育研究室副室長(1名)
 - 6 教務部長が指名した委員 若干名

3 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、前項第1号から第5号の委員の任期はその職にある期間とする。

(ファカルティ・ディベロップメント部会)

第9条 本学が行う授業の内容及び方法の充実と向上を図るための施策を全学的に協議し、実施するために常設の専門部会としてファカルティ・ディベロップメント部会を置く。

2 ファカルティ・ディベロップメント部会は、次の各号の委員をもって構成する。

1 教務副部長(部会長)

2 各学部教務副主任 ただし、教務副主任が置かれていない学部においては、教務主任又は学部長室委員(1名)

3 教職教育研究センター副長(1名)

4 言語教育研究センター副長(1名)

5 スポーツ科学・健康科学教育プログラム室長

6 人権教育研究室副室長(1名)

7 キリスト教と文化研究センター副長(1名)

8 情報メディア教育センター副長(1名)

9 国際教育プログラム室副室長

10 キャリア教育プログラム室室長

11 総合教育研究室副室長(1名)

12 教務部長が指名したもの(若干名)

3 委員の任期は前条に定めるものがその職にある期間とする。

4 部会の運営に関する事項は別に定める。

(事務)

第10条 委員会に関する事務は教務部教務課がこれを行う。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、委員会の議を経て大学評議会で決定する。

附 則

1 この規程は、1997年(平成9年)4月1日から施行する。

2 この規程の施行をもって、生涯学習委員会規程を廃止する。

3 この規程は、1997年(平成9年)5月2日から改正施行する。

4 この規程は、1999年(平成11年)4月1日から改正施行する。

5 この規程は、1999年(平成11年)10月1日から改正施行する。

6 この規程は、2000年(平成12年)4月1日から改正施行する。

7 この規程は、2002年(平成14年)4月1日から改正施行する。

8 この規程は、2002年(平成14年)8月1日から改正施行する。

- 9 この規程は、2004年(平成16年)4月1日から改正施行する。
- 10 この規程は、2005年(平成17年)4月1日から改正施行する。
- 11 この規程は、2006年(平成18年)4月1日から改正施行する。
- 12 この規程は、2007年(平成19年)4月1日から改正施行する。
- 13 この規程は、2008年(平成20年)4月1日から改正施行する。
- 14 この規程は、2009年(平成21年)4月1日から改正施行する。

高等教育推進センター規程

(設置)

第1条 関西学院大学に高等教育推進センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 本センターは、教育力を強化し、教育の質を高めることにより、本学の教育の一層の充実・発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本センターは前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1 本学の教育推進に資する施策の企画・立案及び教育推進連絡会議への提案
- 2 教育力向上（FD）に関する全学的方針の立案及びその方策の推進
- 3 情報通信技術（ICT）を活用した教育の開発・支援及び教育環境の整備・充実
- 4 授業に関わるTA・LA等の教育・指導力向上への支援
- 5 高等教育に関する調査・研究
- 6 センター紀要、技術資料等の発行
- 7 その他必要な事業

(センターの構成員)

第4条 本センターに次の教職員を置く。

- 1 センター長 1名
- 2 センター副長 2名
- 3 センター教員 若干名
- 4 研究員 若干名
- 5 実験助手・教育技術主事 若干名
- 6 事務職員 若干名

第5条 センター長はセンターを代表し、センターの業務を統轄する。

- 2 センター長は本学専任教員のうちから、学長が任命する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長が任期の途中で退任したときは、前任者の任期の残存期間とする。

第6条 センター副長はセンター長を補佐する。センター長に事故あるとき、又はセンター長が欠けたとき、センター副長はその職務を代行する。

- 2 センター副長は本学専任教員のうちセンター長が推薦した者を、学長が任命する。
- 3 センター副長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター副長が任期の途中で退任したときは、前任者の任期の残存期間とする。

第7条 研究員は、本学専任教職員または学外者からセンター長が推薦した者を、学長が任命する。

- 2 研究員の任期は1年とし、再任を妨げない。

3 研究員は第3条第5号の事業に従事する。

(運営委員会)

第8条 本センターの円滑な運営を図るために運営委員会を置く。

第9条 運営委員会は、次の委員をもって構成する。

- 1 センター長
- 2 センター副長
- 3 教務副部長 1名
- 4 センター教員
- 5 実験助手・教育技術主事
- 6 センター次長
- 7 センター事務長
- 8 その他運営委員会が推薦し、学長が委嘱した者 若干名

第10条 運営委員会はセンター長が招集し、議長となる。

2 センター長に事故あるとき、センター副長がこれを代行する。

第11条 運営委員会は、次の事項を審議・決定する。

- 1 センターの管理運営の基本方針に関する事項
- 2 予算・決算に関する事項
- 3 センター諸規定に関する事項
- 4 事業計画に関する事項
- 5 センター人事に関する事項
- 6 その他運営に関する必要な事項

(専門部会)

第12条 運営委員会は必要に応じ、専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、運営委員会が必要と認めた者をもって構成する。

3 専門部会の委員の任期は1年とする。

4 専門部会は、運営委員会から委任された事項について協議する。

(教育力向上(FD)専門部会)

第13条 本学が行う授業の内容及び方法の充実と向上を図るための施策を協議し、実施するために常設の専門部会として教育力向上(FD)専門部会を置く。

2 教育力向上(FD)専門部会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 1 センター副長(部会長) 1名
- 2 教務副部長 1名
- 3 センター教員 若干名
- 4 各学部及び学長直属から選出された教員 各1名
- 5 センター長が指名した者

3 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、前項第1号、第2号及び第4号の委員の任期はその職にある期間とする。

4 専門部会の運営に関する事項は別に定める。

(情報通信技術（ICT）専門部会)

第14条 本学の情報通信技術（ICT）を活用した教育の開発・支援及び教育環境の整備・充実を図るための施策を協議し、実施するために常設の専門部会として情報通信技術（ICT）専門部会を置く。

2 情報通信技術（ICT）専門部会は、次の各号の委員をもって構成する。

1 センター副長（部会長） 1名

2 教務副部長 1名

3 センター教員 若干名

4 各学部、専門職大学院各研究科及び学長直属から選出された教員 各1名

5 センター長が指名した者

3 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、前項第1号及び第2号の委員の任期はその職にある期間とする。

4 専門部会の運営に関する事項は別に定める。

(研究プロジェクト・チーム)

第15条 本センターに、第3条第5号に関する事業を行うため、研究プロジェクト・チームを置くことができる。

(規程の改廃)

第16条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、大学評議会で決定する。

附 則

1 この規程は、2010（平成22）年4月1日から施行する。

2 この規程の施行をもって、「総合教育研究室規程」及び「情報メディア教育センター規程」を廃止する。